

平成29年度事業報告

自 平成29年4月 1日
至 平成30年3月31日

I. 概況

1. 全体景況

政府発表によれば、平成29年度の我が国の経済は、アベノミクスの推進により、雇用・所得環境の改善が続く中で緩やかに回復している。一方、海外経済の緩やかな成長に伴い、輸出や生産が増加基調にある中で、個人消費や民間設備投資が持ち直すなど民需が改善し、経済の好循環が実現しつつある。政府は、持続的な経済成長の実現に向けて、「生産性革命」と「人づくり革命」を車の両輪として、少子高齢化という最大の壁に立ち向かうべく、平成29年12月8日「新しい経済政策パッケージ」を閣議決定した。併せて、追加的財政需要に適切に対処するために、平成29年12月22日に平成29年度補正予算を閣議決定。雇用・所得環境の改善や、各種政策による下支えなどを背景に、景気は緩やかな回復が続くと見込まれる。物価の動向をみると、原油価格の上昇の影響等により、消費者物価（総合）は前年比で上昇している。

この結果、平成29年度の実質国内総生産（実質GDP）成長率は1.9%程度、名目国内総生産（名目GDP）成長率は2.0%程度と見込まれる。また、消費者物価（総合）は0.7%程度の上昇と見込まれる。

（出典：平成30年度経済見通し）

2. 鑄造業界の動向

- (1) 鑄造業の平成29（2017）年の生産金額（ダイカストを除く）は、1兆3,312億円で対前年比2.2%増と3年ぶりに増加した。同じく生産重量は、443万トンで同4.4%増となった。
- (2) 代表業種である銑鉄鑄物の生産金額は、7,775億円、同1.4%増と3年ぶりに増加に転じたが、2年続けて8千億円台を下回った。生産量では344万トン、同6.1%増と3年ぶりに増加に転じたが5年連続して350万トンを下回った。鑄鋼は生産金額が1,242億円、同5.5%増と2年連続して増加し、生産量は184千トン、同22.6%増と6年ぶりに増加した。
- (3) 非鉄金属鑄物（ダイカストを除く）は、銅合金鑄物の生産金額が892億円、同0.3%減と2年連続しての減少となり、生産量も75,401トン、同2.7%減となり7年続けて8万トンを下回った。一方、アルミニウム鑄物は2,949億円、同3.5%増と再び増加し、生産量は440千トン、同3.9%増と4年連続増加し、過去最高の生産量となった。この結果、平成29年の全生産金額（ダイカストを含む）に占める非鉄鑄物比率は、昨年の50.3%から51.2%となり、2年連続して50%を超えた。

表1. 鋳造品の生産額推移

単位：億円、%

平(年)	鋳鉄鋳物	鋳鋼	銅合金	アルミ鋳物	精密鋳造品	ダイカスト
12(2000)	9,055(102.1)	1,377(109.7)	700(99.5)	2,888(103.2)	471(117.4)	4,655(106.3)
17(2005)	9,130(107.5)	1,434(117.2)	823(98.7)	2,791(107.3)	463(105.5)	6,000(108.9)
22(2010)	8,509(125.7)	1,367(103.0)	958(114.1)	2,631(126.9)	514(118.4)	5,765(130.0)
24(2012)	8,488(98.9)	1,280(97.6)	960(88.9)	2,744(106.2)	507(96.9)	5,806(104.1)
25(2013)	8,276(97.5)	1,288(100.6)	877(91.4)	2,717(99.0)	519(102.4)	5,687(98.0)
26(2014)	8,385(101.3)	1,200(93.2)	952(108.6)	2,821(103.8)	565(108.9)	5,874(103.3)
27(2015)	8,219(98.0)	1,100(91.7)	966(101.5)	2,850(101.0)	539(95.4)	5,848(99.6)
28(2016)	7,662(93.2)	1,177(107.0)	894(92.5)	2,812(98.7)	482(89.4)	5,746(98.3)
29(2017)	7,775(101.4)	1,242(105.5)	892(99.7)	2,949(103.5)	454(94.1)	6,093(106.0)

注1.鋳鉄鋳物には、鋳鉄管、可鍛鋳鉄を含む。注2.()は、対前年比

表2. 鉄鋳物の生産量推移

単位：千トン、%

平成(年)	合計	鋳鉄鋳物	鋳鉄管	可鍛鋳鉄	鋳鋼
12(2000)	4,941(104.2)	3,998(106.2)	580(91.3)	98(96.4)	264(102.6)
17(2005)	5,036(103.0)	4,299(104.8)	403(88.9)	58(74.8)	277(107.1)
22(2010)	4,030(123.9)	3,469(132.4)	316(79.1)	39(104.9)	207(104.3)
24(2012)	4,157(101.7)	3,587(101.7)	330(110.3)	37(92.5)	203(93.1)
25(2013)	4,053(97.5)	3,481(97.0)	344(104.1)	46(124.3)	182(89.7)
26(2014)	4,058(100.1)	3,482(100.0)	360(104.7)	44(95.7)	172(94.5)
27(2015)	3,929(96.8)	3,331(95.7)	398(110.6)	43(97.6)	157(91.1)
28(2016)	3,736(95.1)	3,236(97.1)	310(77.9)	41(95.3)	150(95.6)
29(2017)	3,909(104.6)	3,435(106.1)	248(80.0)	42(102.4)	184(122.7)

※注 ()は、対前年比

表3. 精密鋳造品・非鉄金属鋳物の生産量推移

単位：トン、%

平成(年)	精密鋳造品	銅合金	アルミ鋳物	ダイカスト
12(2000)	7,345(111.4)	87,093(105.3)	412,824(104.6)	833,223(109.4)
17(2005)	7,380(97.9)	97,794(92.7)	412,483(103.7)	1,064,866(108.1)
22(2010)	5,899(136.0)	79,293(105.3)	386,812(132.5)	980,850(129.3)
24(2012)	6,396(97.2)	79,571(95.7)	420,531(109.5)	1,006,285(108.1)
25(2013)	6,357(99.4)	73,433(92.3)	413,804(98.4)	984,842(97.9)
26(2014)	6,702(105.4)	77,113(105.0)	417,299(100.8)	1,001,099(101.6)
27(2015)	5,824(86.9)	77,884(101.0)	418,556(100.3)	977,481(97.6)
28(2016)	5,441(93.4)	77,477(99.4)	423,646(101.2)	980,413(100.3)
29(2017)	5,492(100.9)	75,401(97.3)	440,155(103.9)	1,042,377(106.3)

※注 ()は、対前年比

II. 協会活動の概要

平成 29 年度は、新鑄造産業ビジョンを平成 29 年 9 月に「鑄造産業ビジョン 2017」として策定するとともに、前年度からの継続として、①技術開発による商品開発力の向上、②経営基盤強化と健全な取引による事業発展、③同業／異業／地域との積極的な連携による競争力強化、④海外との連携、⑤人材育成の充実、⑥環境・エネルギー対策の強化に基づく事業計画に従って協会事業活動を推進した。

平成 29 年度の主な事業活動は次のとおり。

1. 新鑄造産業ビジョン策定委員会は、平成 29 年 3 月に取りまとめた新鑄造産業ビジョン（暫定版）の検討を引き続き行い、平成 29 年 9 月 29 日の理事会協会役員会に「鑄造産業ビジョン 2017」として報告し、承認された。この「鑄造産業ビジョン 2017」を協会ホームページに掲載するとともに、各種会合等を通じて広く会員への周知を行った。同委員会は、鑄造産業ビジョン 2017 で提唱した IoT 等の推進を図るため「IoT 推進委員会」の設立を提案した。
2. 平成 30 年度予算・税制要望として政府、鑄物議連等に対して、①取引慣行適正化の推進、②エネルギーコスト拡大の抑制、③新たな外国人技能実習制度への円滑な移行、④経営者保証に関するガイドラインの周知・徹底、⑤中小企業に配慮した人材育成への助成の充実などを要望。長年要望してきた中小企業の事業承継税制の雇用要件緩和が平成 30 年度税制改正として実現した。
3. 「未来志向型の取引慣行に向けて（世耕プラン）」に基づき、9 月に自動車産業適正取引ガイドライン及び素形材産業取引ガイドラインの周知状況に関するフォローアップ調査を 4 年連続して行い、政府へ報告して両ガイドラインの追加改訂を要望した。
4. 世耕プランに基づき、素形材産業の適正取引と生産性・付加価値向上に向けた自主行動計画のフォローアップとして、同自主行動計画や型管理アクションプランの周知、中小企業庁が実施した「価格サポート事業」に基づくハンドブックやパンフレットを活用した適正取引の推進に関する講演会を全国 14 ヶ所で実施し、延べ 531 名が参加した。
5. 技術開発・環境分野では、環境・エネルギー対策としての、CO₂ 削減に関するアンケートを引き続き実施するとともに、初めて省エネセミナー及び省エネ展示会を開催し、36 名の参加者があった。
6. 標準化では、前年度に続いて、「JIS G5903（鑄鉄製又は鑄鋼製のショット及びグリット）」の改正規格の公示が決定した。また、ISO/TC25 国内審議会の活動として第 29 回 ISO/TC25 全体会議及び WG に参加し、討議を行った。
7. 人材育成では、将来の鑄物工場の経営者や工場長の育成を目指した鑄造カレッジを北海道・関東・東海・関西地区の 4 ヶ所で、鑄鉄・鑄鋼コースの 2 コースを開催し、合計 96 名が受講修了した。当協会が認定する鑄造技士は、平成 29 年度で累計 827 名を認定す

るに至った。

8. 新入社員を対象とした新人教育研修プログラム「鑄造入門講座（鑄鉄・アルミニウム鑄物コース）」を受講生 64 名により 4 月から 6 ヶ月間実施し、全員修了した。
9. 課題解決型専門コースである鑄造カレッジ上級コース「鑄鉄材料・砂型コース」を、平成 29 年 6 月～平成 30 年 2 月まで開講して 15 名が受講した。また、完成した鑄鉄材料テキストを配布した。
10. 専門研修として、現場技術者及び作業者を対象に、「溶解」と「造型」を含む鑄造の基礎技術に関する鑄造技術研修会を、東京（6 月）、広島（12 月）、名古屋（3 月）にて延べ 6 日開催し、延べ 127 名が受講した。また、軽合金の現場技術者及び作業者を対象に、第 3 回軽合金鑄造技術研修会を 9 月に開催し、16 名が受講した。さらに、一昨年、昨年度に続き、IT 化の推進のために「第 3 回鑄造 3D-CAD 操作技能研修会」を 1 月に実施し、12 名が受講した。
11. 非鉄金属鑄物分野の交流促進を目的とする非鉄情報交換会・工場見学会を開催。春季は 7 月に小樽にて「工場見学・情報交換会」を実施、秋季は 11 月に「ベトナム鑄造工場視察」を実施した。
12. 軽合金委員会は、7 月に大阪・東京にて技術セミナー「欧州における無機中子技術の紹介」を開催。非鉄鑄物業以外の参加も多く、延べ 153 名の参加となった。また、併せて昨年度に引き続き関西地区・軽合金鑄物業の方との情報交換会を実施。貴重な意見交換並びに親睦を含めた。
13. 国際活動は、9 月 12 日～15 日に第 9 回国際精密鑄造セミナー（ISIC2017）を東京田町の建築会館で開催し、11 の国・地域から 171 名の参加があり、講演会、懇親会及び工場見学会を開催した。
14. ドイツ鑄造協会（BDG）、アメリカ鑄造協会（AFS）等の欧米主要協会と協力関係の強化策を議論した。11 月 8～9 日に韓国、仁川市で開催された第 4 回アジア鑄造フォーラム（AFF）に参加しアジア各国の協会とグローバル化への課題と対応策を協議した。また、中国からの訪日視察団を 5 月（16 名）及び 6 月（25 名）、9 月に韓国からの訪日視察団（33 名）を受け入れた。
15. 地方組織の活性化を推進するため、東海支部、北陸支部、中国四国支部の 3 支部活動を支援して地域活動を展開した。併せて、島根県鑄造関連産業振興協議会との交流を実施した。
16. 5 月に総会に併せて春季大会講演会を東京で開催、9 月に秋季大会講演会を秋田県秋

田市において日本鑄造工学会と合同開催した。若手経営者全国大会を9月（島根県松江市）に講演会・工場見学会、2月（東京都）に講演会を開催した。

Ⅲ. 会議に関する事項

1. 会議に関する事項

本会運営上の基本的な事項及び重要案件を審議決定するため、総会、理事会5回、協会役員会4回、正副会長会5回、監事会1回をそれぞれ開催し、事業の円滑な推進を図った。

(1) 社員総会

平成29年5月18日（木）、機械振興会館に於いて第5回社員総会を開催し、次の議案を審議・承認した。委任状を含む出席数238名。

- ① 平成28年度事業報告（案）
- ② 平成28年度収支決算（案）
- ③ 平成29年度事業計画（案）
- ④ 平成29年度収支予算（案）

(2) 理事会

第21回から第25回までの合計5回開催し、協会運営に関する重要事項について審議・決定し、事業の推進を図った。

- ① 第21回：平成29年 4月 26日（水） 機械振興会館
- ② 第22回：平成29年 5月 18日（木） 機械振興会館
- ③ 第23回：平成29年 9月 29日（金） 秋田キャッスルホテル
- ④ 第24回：平成30年 1月 23日（火） 東京プリンスホテル
- ⑤ 第25回：平成30年 3月 23日（金） 機械振興会館

(3) 協会役員会

第17回から第20回までの合計4回開催し、協会運営に関する重要事項について審議・決定し、事業の推進を図った。

- ① 第17回：平成29年 5月 18日（木） 機械振興会館
- ② 第18回：平成29年 9月 29日（金） 秋田キャッスルホテル
- ③ 第19回：平成30年 1月 23日（火） 東京プリンスホテル
- ④ 第20回：平成30年 3月 23日（金） 機械振興会館

(4) 正副会長会

第63回から第67回まで、合計5回開催し、重要案件について審議した。

- ① 第63回：平成29年 4月 26日（水） 機械振興会館
- ② 第64回：平成29年 7月 6日（木） 機械振興会館
- ③ 第65回：平成29年 9月 4日（月） 機械振興会館
- ④ 第66回：平成29年 12月 7日（木） 機械振興会館
- ⑤ 第67回：平成30年 2月 21日（水） 機械振興会館

(5) 監事会

平成30年4月18日（水）機械振興会館に於いて監事会を開催し、平成29年度事業報告書、同収支決算書及び財産目録について監査を行った。

2. 部会に関する事項

(1) 総務部会

田中総務部会長の下に総務部会を3回開催し、本会の財務・経理及び組織・運営（他の部会に属するものを除く）に関する事項について審議した。

- ① 第43回 平成29年 6月 8日（木） 機械振興会館
- ② 第44回 平成29年 11月 8日（水） 広島県・広島市
- ③ 第45回 平成30年 2月 8日（木） 機械振興会館

(2) 経営部会

①大亀部会長の下に経営部会を4回開催し、部会の運営に関する基本的、重要な事項についての検討と、会員の企業経営に役立つ情報の提供並びに行事等の企画・立案について審議した。

- a. 第47回 平成29年 6月 15日（木） 機械振興会館
- b. 第48回 平成29年 8月 23日（水） 機械振興会館
- c. 第49回 平成29年 11月 24日（金） 機械振興会館
- d. 第50回 平成30年 2月 15日（木） 機械振興会館

②今年度は、主要テーマを次の3テーマに絞り、各副部会長が各テーマのリーダーをそれぞれ担当して活動を実施した。

- a. 「F I T」
- b. 「職場環境整備」
- c. 「P R ・次世代の育成」

③業界の動向を把握し、統計データ、最近の casting 業界動向、原材料副資材コスト動向の会員への情報提供と協会ホームページへの掲載を行った。また、協会活動の見える化、共有化を図るため、協会ホームページへ各部会活動報告、部会議事録を掲載した。

(3) 技術部会

濱田技術部会長の下に技術部会を3回開催し、部会の運営に関する基本的、重要な事項についての検討及び委員会運営等に関する事項について審議を行った。

- ① 第1回 平成29年 7月 5日（水） 機械振興会館
- ② 第2回 平成29年 10月 11日（水） 岐阜県関市 丹羽鑄造株式会社
- ③ 第3回 平成30年 2月 7日（水） 機械振興会館

(4) 非鉄部会

財部非鉄部会長の下に非鉄部会を3回開催し、部会の運営方針、鑄造産業ビジョン、鑄造カレッジ非鉄コースの運営と委員会活動に関する事項について審議を行った。

- ① 第1回 平成29年5月18日（木） 機械振興会館
- ② 第2回 平成29年6月22日（木） 機械振興会館
- ③ 第3回 平成30年2月14日（火） 機械振興会館

(5) 国際部会

松永国際部会長の下に、国際部会を3回開催し、国際交流、海外視察・調査等に関する事項について審議を行った。9月12日～15日に、当協会が主催する第9回国際精密鑄造セミナーを建築会館で開催し、各国・地域から171名の参加があり、欧米主要

協会とは協力関係の強化策も議論した。11月8日～9日には韓国、仁川市でのアジア
鋳造フォーラムに参加しアジア各国・地域の協会とグローバル化への課題と対応策を
協議した。

- ① 第1回 国際部会 平成29年 6月 1日 富山県氷見市 コマツキャストックス
- ② 第2回 国際部会 平成29年10月20日 機械振興会館
- ③ 第3回 国際部会 平成30年 2月 9日 機械振興会館

(6) 中小企業部会

酒井中小企業部会長、谷口中小企業副部会長（部会長代行）の下に中小企業部会を5
回開催し、本協会の中小企業振興に関する事業、組合に関する事業等について審議を
行った。

- ① 第54回 平成29年 6月 9日（金） 機械振興会館
- ② 第55回 平成29年 9月 20日（水） 機械振興会館
- ③ 第56回 平成29年12月 6日（水） 機械振興会館
- ④ 第57回 平成30年 2月 13日（火） 機械振興会館
- ⑤ 第58回 平成30年 3月 15日（木） 機械振興会館

(7) 機材部会

大久保機材部会長の下に機材部会を3回開催し、機材部会としての活動方針・計画等
に関する事項について審議を行った。平成29年度より活動を開始したISO/TC306は
6月27-28日に中国、済南市での第1回国際会議を得て、鋳造機械の用語、造型機と
ダイカスト機械の安全を3つのWGで、ISO化していく方針を決議した。

- ① 第1回 機材部会・設備委員会合同部会 平成29年 6月 14日 機械振興会館
- ② 第2回 機材部会・設備委員会合同部会 平成29年10月17日 静岡産学交流センター
- ③ 第3回 機材部会・設備委員会合同部会 平成30年 2月 15日 機械振興会館

IV. 鋳造産業ビジョン2017の策定に関する事項

1. 新鋳造産業ビジョン策定委員会は、平成29年3月15日に理事会協会役員会へ報告し
た新鋳造産業ビジョン（暫定版）の検討を引き続き進めた。アクションプランについて
は、各部会にて協会の取組み事項についての審議を5月～7月の間で行い、これをまとめ
た。同委員会は、7～9月にかけて最終とりまとめ作業を行い、9月に正副会長会、理事会
協会役員会への答申を行った。

2. 審議経緯

- (1) 平成29年7月14日 第6回委員会
新鋳造産業ビジョンの最終とりまとめの審議
- (2) 平成29年8月24日 拡大幹部会議
正副委員長幹部及び委員有志による正副会長会への答申案の最終とりまとめ審議
- (3) 平成29年9月4日 正副会長会
佐藤委員長から、鋳造産業ビジョン2017を答申
- (4) 平成29年9月29日 理事会協会役員会
佐藤委員長から、鋳造産業ビジョン2017を報告し、承認された。

3. 概要

(1) 策定目的

日本の鑄造産業を発展させ世界の需要に対応し、勝ち残っていくべく、真剣に攻めの経営で挑戦し、企業規模を問わず業界を牽引することを目指す企業（中核リーダー企業）への指針

(2) 10年後のあるべき姿

- ①下請け体質から脱却し、提案型のイコールパートナーになり、健全な取引慣行を確立し、高い収益性を実現する。
- ②IoT/AI/VR/3D プリンターの活用による新たなサービスが生まれている。また製造現場では、自動化・省エネ化・効率化を進め、環境に配慮した安全でクリーンなスマートファウンドリー（Smart Foundry）化を進める。
- ③グローバル人材も含め、積極的な人材の確保・育成を行い、若者にも働き甲斐のある魅力的な産業になる。
- ④海外も含めた新連携、技術革新と企業体質の強化、海外市場・B2C 市場への拡張を実現し、企業価値を向上する。

(3) 鑄造産業の目指すべき6の方向性

我が国鑄造産業の置かれている足元の状況を踏まえ、鑄造産業が直面する課題を克服し、10年後のあるべき姿を実現に導くために、鑄造産業の目指すべき6の方向性を次のとおりにまとめた。

- ①技術・技能で商品力を高め攻めの経営
- ②経営基盤強化と健全な取引による事業発展
- ③同業/異業/地域との新連携の構築
- ④市場拡大のための海外展開
- ⑤グローバル人材も含めた積極的な人材の確保・育成
- ⑥安全・環境・エネルギー対策の強化

4. 新鑄造産業ビジョン策定委員会委員名簿

委員長	佐藤 孝造	佐藤鑄工(株)	代表取締役社長
副委員長	塩谷 栄治	石川可鍛製鉄(株)	代表取締役社長
〃	富田 康裕	(株)富田鑄工所	代表取締役社長
〃	藤原 宏嗣	アサゴエ工業(株)	取締役製造統括
委員	明石 隆史	(株)明石合銅	専務取締役
	大田 結美子	(株)大田鑄造所	取締役
	大野 剛	新東工業(株)	鑄造事業部調査役
	木村 寿利	(株)木村鑄造所	代表取締役社長
	栗田 圭介	栗田工業(株)	取締役
	島村 大	島村工業(株)	代表取締役
	田中 宏典	大和重工(株)	取締役副社長
	田島 正明	(株)田島軽金属	代表取締役社長
	西村 有司	日本ルツボ(株)	営業部次長

松浦 幸枝 (株)エノモト 総務課長
 宮坂 誠 (株)コヤマ 取締役
 若林 誠 (株)キャスト 常務取締役

V. 事業活動に関する事項

1. 大会及び講演会・講習会等の開催に関する事項

(1) 平成 29 年度春季大会講演会の開催

平成 29 年 5 月 19 日 (金) 東京にて春季大会講演会を開催した。

講演会 機械振興会館 地下 2 階ホール 参加人数 123 名

演 題	講演者 (所属)
第 1 部 鑄造技士による講演 「若手が語る鑄造の未来」 ～鑄造技士になって取り組んだこと～	1. 城田大資 (城田鑄工(株)) 2. 菅沼喬央 (株)菅沼 3. 山崎裕一郎 (有)山崎鑄造 4. 小野隆司 (大和重工(株)) 5. 西村有司 (日本ルツボ(株)) 6. 関一 (伊藤機工(株)) 7. 鷺頭史和 (株)マスセイ 8. 小楠竜也 (山川産業(株)) 9. 後藤 真 (株)真岡製作所 10. 後藤 亮 (日立金属(株)) 11. 村田浩二 (有)小穴鑄造所
第 2 部 経営講演 「人手不足の中での人材確保、 人材定着について」	講 師：伊奈 友子 (中小企業庁事業環境部企画課調査室長) パネラー： 笠原康正 (株)北川鉄工所 執行役員) 手塚加津子 (昭和電気鑄鋼(株) 代表取締役社長) 高橋健太郎 (株)ハイキャスト 代表取締役社長) 山岸友里恵 (中小企業庁事業環境部調査室調査員)
第 3 部 グローバル経済に関する 講演 「韓国鑄造産業の現状」	朴 基浩(南陽金属(株) 副社長)

(2) 平成 29 年度秋季大会講演会の開催

平成 29 年 9 月 30 日 (土) 秋田市にて日本鑄造工学会と秋季大会講演会を合同開催した。

講演会 秋田大学 手形キャンパス 参加人数 86 名

演 題	講演者 (所属)
第 I 部 経営講演 (1) 「取引ガイドライン普及セミナー」	橋本 千晃 (経済産業省 製造産業局 素形材産業室 専門職) 引地 恵子 (公財) 全国中小企業取引振興協会 下請かけ こみ寺 相談員)
第 II 部 本部企画講演 (1) 「50 年を経て生き残りをめざして」 (2) 「チャレンジ精神で挑む」 ～家電炊飯器内釜の製品化への取組み～	伊藤 和宏 (株)イトー鑄造 代表取締役社長) 及川勝比古 (株)水沢鑄工所 代表取締役社長)

(3) 第9回国際精密鑄造セミナーの開催

平成29(2017)年9月12～15日、第9回国際精密鑄造セミナー(ISIC-TOKYO 2017)を東京三田の建築会館ホールにて開催した。11の国・地域から4日間の講演会・懇親会・工場見学会に、延べ約400名の参加があり、盛況裏に終了した。なお、企画・運営は、実行委員会(委員長:戸田拓夫(株)キャスト社長)により対応した。

本セミナーは、中国・台湾・韓国・インドをはじめとするアジア全体の技術力アップとアジアの情報センターとしての立場を担うことを目的に、平成11(1999)年9月第1回を開催し、その後隔年開催。なお、平成25(2015)年の第8回は、台湾・高雄にて台湾鑄造学会主催として開催しているため、東京での開催は、4年ぶりであった。また、今回から工場見学を2日間として、開催期間を4日間とした。

①開催期間:9月12日(火)～15日(金)・4日間

②開催場所:建築会館ホール(JR 田町駅)

③参加登録者数(招待を含む):171名(11の国・地域)(平成25(2015)年127名)

・内訳/日本:80名、中国:26名、台湾:28名、韓国:5名、シンガポール:3名、アメリカ:13名、イギリス:9名、ドイツ:3名、オーストリア:2名、チェコ:1名、スペイン:1名

④講演会

・参加者:171名

・開催日:9月13日(水)～14日(木)

・講演数:27件

a.基調講演1件(日本)

b.市場動向7件(世界、欧州、北米、日本、中国、台湾、韓国)

c.技術講演19件(日本、アメリカ、欧州、中国、台湾、中国、チェコ、)

・発言言語:日本語・英語(日英・日中の同時通訳方式)

⑤工場見学

【Aコース】参加登録人数:55名

・開催日:9月12日(火)

・見学先:キングパーツ、北川鉄工所

【Bコース】参加登録人数:47名

・開催日:9月15日(金)

・見学先:JUKI会津

⑥パネル・カタログ展示

・展示期間:9月13日(水)～14日(木)・2日間

・展示場所:建築会館ロビー

・出展数:18社

(日本9社、台湾2社、イギリス4社、オーストリア2社、アメリカ1社)

⑦レセプション

・参加者:130名

・開催日時:9月13日(水)18:30～20:30

・開催場所:笹川記念会館レストラン

(4) 平成 29 年度省エネセミナー及び省エネ展示会

平成 29 年 12 月 8 日（金）機械振興会館にて、エネルギー削減委員会主催による、省エネをテーマにしたセミナーと講演企業各社の製品及びパネル展示による展示会を開催した。参加人数 36 名

講演内容	講演企業
誘導炉の基礎	富士電機株式会社
省エネに効果的な電気炉操業のポイント	北芝電機株式会社
省エネ技術・情報	日本ルツボ株式会社
エア漏れ探査器、エアリークディテクターII の紹介	アズビル株式会社
省エネ用 V ベルト、「e-POWER WEDGE」の紹介	三ツ星ベルト株式会社
低放射遮熱効果による省エネ対策法「サーモレジン S V 工法」	中外商工株式会社
周波数変調電磁場水処理装置「スケールウォッチャー」	有限会社ビー・テップ

(5) 若手経営者全国大会の開催

平成 29 年 9 月 7 日～8 日に島根地区で夏季大会（講演会・懇親会・工場見学会）、平成 30 年 2 月 16 日東京地区で冬季大会（素形材団体との交流会）の計 2 回実施した。

①夏季大会

a. 講演会 平成 29 年 9 月 7 日（木）松江テルサ（島根県松江市） 参加人数 112 名

演題	講演者	所属
「素形材産業の取引適正化に向けた取組について」	引地 恵子	(公財)全国中小企業取引振興協会 下請かけこみ寺 相談員
「新鑄造産業ビジョンについて」	佐藤 孝造	新鑄造産業ビジョン策定委員会 委員長
「山陰のたたら製鉄と鑄物師」	角田 徳幸	島根県立古代出雲歴史博物館
「夢をビジネスに変える」	戸田 拓夫	(株) キャステム 代表取締役社長

b. 工場見学会 平成 29 年 9 月 8 日（金）

ヤンマーキャステクノ(株)、(株)ダイハツメタル、NTN 鑄造(株)をコース別に訪問

②冬季大会

a. 講演会 平成 30 年 2 月 16 日（金）メルパルク東京（東京都港区）
参加人数 125 名

演題	講演者	所属
「素形材産業の現状と課題」	岡本 繁樹	経済産業省素形材産業室 室長

「町工場の全社員が残業ゼロで 年収 600 万円以上もらえる理 由」	吉原 博	(株) 吉原精工 会長
--	------	-------------

(6) 原材料・副資材動向説明会

経営部会市場調査委員会主催による原材料・副資材動向説明会を次のとおり開催した。参加者：62名

①日 時：平成 29 年 9 月 20 日（水） 15：20～17：00

②場 所：機械振興会館 地下 3 階 研修 2 会議室

③内 容：・「鉄スクラップの動向」

説明者：草野産業(株) 取締役鑄造営業部長 山下 政博

・「鋼材の製造状況について～鑄造鉄源動向に関して」

説明者：新日鐵住金(株) 名古屋製鐵所 製鉄部鑄物銑室長 横山 隆宏

・「フラン樹脂の需要動向」

説明者：花王クエーカー(株) 営業本部長 大沼 研一郎

・「マグネシウム合金等の需要動向」

説明者：大阪特殊合金(株) 代表取締役社長 宮脇 成志

(7) 外国人技能実習制度説明会

平成 29 年 11 月から施行する「新たな外国人技能実習制度について」の説明会を法務省及び厚労省の担当者が講師となり、開催した。参加者：62名

①日 時：平成 29 年 9 月 20 日（水） 14：10～15：10

②場 所：機械振興会館 地下 3 階 研修 2 会議室

③講 師：法務省入国管理局入国在留課 補佐官 梅原 義裕

厚生労働省人材開発総括官付海外人材育成担当参事官室 企画官 立石 裕子

(8) リスクアセスメント推進研修会

労働災害の減少を図るため、安全管理手法としてリスクアセスメント（機械等や作業の危険・有害性の事前評価）を推進する研修会を（一社）日本鑄鍛鋼会、（一社）日本ダイカスト協会及び（一社）日本鍛造協会と合同で開催した。参加者 20 名（4 団体合計 55 名）

①日 時：平成 29 年 9 月 7 日（木） 10：30～16：10

②場 所：新大阪丸ビル・新館 506 号室

③講 師：RM研究所 専務理事 成瀬正和

(9) セミナー

（一社）日本ダイカスト協会、（一社）日本鍛造協会及び（一社）日本鑄鍛鋼会と合同で、高度ポリテクセンター*の協力により、次のセミナーを開催した。

①「一人前に近づく 鋼の熱処理」

東京（8月29日（火））、名古屋（9月8日（金）） 延べ参加者 1名

②「モノづくりに必要な切削加工のいろは 「旋盤_鋼材編」

東京（5月22日（月）～23日（火）） 延べ参加者 2名

③「モノづくりに必要な切削加工のいろは 「フライス盤_鋼材編」

千葉（6月1日（木）～2日（金）） 延べ参加者 2名

- ④「モノづくりに必要な切削加工のイロハ 「旋盤_アルミ編」
千葉（6月27日（火）～28日（水）） 延べ参加者 1名
- ⑤「モノづくりに必要な切削加工のイロハ 「フライス盤_アルミ編」
千葉（7月31日（月）～8月1日（火）） 延べ参加者 1名
- ⑥「工業・製品図面読み方のポイント」
大阪（7月4日（火）～5日（水））、東京（9月12日（火）～13日（水））
延べ参加者 35名

*（独）高齢・障害・求職者雇用支援機構 高度職業能力開発促進センター

(10) 技術セミナー「欧州における無機中子技術の紹介」

環境改善や鋳造品の品質改善を目的に、欧州で開発された水ガラス系の新しい無機バインダーを使った中子の実用化が日本でも始まろうとしている。そこで、無機中子 INOTEC の実績が豊富な欧州のアルミ鋳造工場において実用化が進んでいる状況を紹介するセミナーを開催した。

- ①大阪開催／参加者 80名
 - ・日 時：平成 29 年 7 月 12 日（火）
 - ・場 所：TSURUYA ホール（大阪）
- ②東京開催／参加者 73名
 - ・日 時：平成 29 年 7 月 14 日（木）
 - ・場 所：機械振興会館（東京）
- ③内 容／
 - a. バインダー：ASK Chemicals GmbH
 - b. 金 型：Modelleria Brambilla S.p.a.
 - c. 造 型 機：Laempe Moessner Sinto GmbH
 - d. 砂 再 生：R. Scheuchl GmbH

2. 国際競争力を発揮できる環境の整備に関する事項

(1) 経営基盤強化にかかる政策制度への対応

11月9日（木）に開催された自民党「予算・税制等に関する政策懇談会」において下記の予算・税制要望を行った。

【予算関係】

- ①電力多消費産業に対する省エネ投資支援施策の特例について
- ②中小企業に配慮した人材育成等への助成の充実
- ③取引慣行適正化
- ④経営者保証に関するガイドラインの周知・徹底

【税制関係】

- ①中小企業の事業承継税制の要件緩和
- ②地球温暖化対策税の用途拡大等の反対

(2) 鋳物産業振興議員連盟への要望

自由民主党の鋳物産業振興議員連盟（会長：麻生太郎衆議院議員）の総会に併せて情報交換会を以下のとおりそれぞれ実施し、鋳物産業振興議員連盟及び経済産業省他官

公庁への施策・税制要望並びに情報交換を行った。

①第17回鋳物産業振興議員連盟（自由民主党）総会・情報交換会

平成29年6月20日（火）12：00～13：00 自由民主党本部会議室

- ・参加者：鋳物産業振興議員連盟（麻生太郎会長、逢沢一郎顧問、新藤義孝幹事長、坂本哲志事務局長、武藤容治、藤川政人事務局次長他6名）、官公庁（経済産業省、資源エネルギー庁、中小企業庁、厚生労働省、法務省、金融庁）、日本鋳造協会（伊藤会長、酒井副会長、大久保副会長 他13名）
- ・内容：（1）重点要望項目 ①取引慣行適正化の推進 ②エネルギーコスト拡大の抑制 ③再生可能エネルギー固定価格買取制度(FIT)の見直し ④原子力発電の安全性を確保した早期再稼働を含めた安価で安定的なエネルギー供給、（2）施策関連要望 ①新たな外国人技能実習制度への円滑な移行について ②経営者保証に関するガイドラインの周知・徹底、（3）予算・税制要望 ①電力多消費産業に対する省エネ投資支援施策の特例 ②中小企業に配慮した人材育成への助成の充実 ③中小企業の事業承継税制の要件緩和

3. 鋳造業の経営改善・振興対策に関する事項

（1）取引条件適正化の推進

①取引ガイドライン等の周知活動

素形材産業取引ガイドライン及び「未来志向型の取引慣行に向けて」（世耕プラン）・自主行動計画の周知活動を平成29年4月～12月までの間に当協会単独で全国14ヶ所で開催し、延べ531名が参加。

a. 東海北陸鋳物工業会例会 参加者 70名

日 時：平成29年4月7日（金） 14:00～17:00

場 所：名古屋市 名古屋観光ホテル

演 題：「未来志向型の取引慣行に向けて」

講 師：副会長 酒井英行

b. 中国四国支部総会講演会 参加者 100名

日 時：平成29年4月11日（火） 15:00～16:00、

場 所：広島市 ホテルセンチュリー21

演 題：「来志向型の取引慣行に向けて」

講 師副会長 酒井英行

c. 近畿鋳物協議会 参加者 21名

日 時：平成29年4月21日（金） 15:00～16:00

場 所：大阪産業創造館 12階 会議室

演 題：「未来志向型の取引慣行に向けて」

講 師：副会長 酒井英行

d. 総 会 参加者 50名 参加者 30名

日 時：平成29年5月18日（木） 13:45～14:45

場 所：機械振興会館 B2ホール

演 題：「未来志向型の取引慣行に向けて」
講 師：経済産業省 素形材産業室長 蘆田和也
副会長 酒井英行

e. 量産銑鉄鋳物委員会

日 時：平成 29 年 6 月 7 日（水）13:30~17:00
場 所：機械振興会館 6 階 6-65 号会議室
演 題：素形材産業取引ガイドライン（改訂版）セミナー
講 師：素形材産業室 専門職（製品担当）橋本千晃

f. 組合代表者会・事務局長会 参加者 35 名

日 時：平成 29 年 6 月 9 日（金）13:00~17:00
場 所：機械振興会館 地下 6 階 6-67 会議室
演 題：素形材産業取引ガイドライン（改訂版）セミナー
講 師：経済産業省 素形材産業室 専門職（製品担当）橋本千晃
副会長 酒井英行

g. 経営部会 参加者 12 名

日 時：平成 29 年 6 月 15 日（木）
場 所：機械振興会館会議室
演 題：世耕プランの説明
講 師：事務局

h. 非量産銑鉄鋳物委員会 参加者 30 名

日 時：平成 29 年 6 月 27 日（火）13:00~14:30
場 所：機械振興会館地下 3 階 B3-1 号室
演 題：「未来志向型の取引慣行に向けて」
講 師：副会長・ガイドライン普及委員会委員 酒井英行
演 題：「質疑応答、中小企業庁取引課との情報交換」
講 師：中小企業庁事業環境部取引課長 安藤 保彦

i. 北海道銑鉄鋳物工業協同組合定時総会 参加者 19 名

日 時：平成 29 年 6 月 28 日（水）17:00~19:00
演 題：未来志向型取引（世耕プラン）及び素形材産業取引ガイドライン改訂について
場 所：札幌グランドホテル
講 師：副理事長 佐藤孝造（佐藤鋳工（株）社長）

j. 水沢鋳物工業協同組合セミナー 参加者 30 名

日 時：平成 29 年 7 月 28 日（金）16:00~17:30
場 所：奥州市鋳物技術交流センター 二階第 1 研修室
演 題：素形材産業取引ガイドラインについて
講 師：公益財団法人 全国中小企業取引振興協会下請かけこみ寺
相談員 引地 恵子

k. 中越鋳物工業協同組合セミナー 参加者 28 名

日 時：平成 29 年 8 月 21 日（月）17:00~18:15

演 題：未来志向型取引（世耕プラン）及び素形材産業取引ガイドライン改訂について

場 所：割烹 魚藤

講 師：公益財団法人 全国中小企業取引振興協会下請かけこみ寺
相談員 引地 恵子

l. 若手経営者夏季全国大会 参加者 110 名

日 時：平成 29 年 9 月 7 日（木）13：35～14：35

演 題：「素形材産業の取引適正化に向けた取組について」

場 所：松江市 松江テルサ 4 階大会議室

講 師：公益財団法人 全国中小企業取引振興協会下請かけこみ寺
相談員 引地 恵子

m. 平成 29 年度秋季大会「取引ガイドライン普及セミナー」 参加者 70 名

日 時：平成 29 年 9 月 30 日（土）9：40～11：00

演 題：未来志向型取引（世耕プラン）及び素形材産業取引ガイドライン改訂について

場 所：秋田市 秋田大学 手形キャンパス

講 師：経済産業省 素形材産業室 専門職（製品担当）橋本千晃
公益財団法人 全国中小企業取引振興協会下請かけこみ寺
相談員 引地 恵子

n. 軽合金委員会 参加者 13 名

日 時：平成 29 年 12 月 7 日（木）

場 所：機械振興会館会議室

演 題：世耕プランの説明

講 師：事務局

- ②スクラップの高騰、フラン樹脂の度重なる値上げによる暴騰やその他副資材の値上げ、加えて労務費の上昇の価格転嫁が厳しい現状を踏まえ、会長名文書「健全取引安定供給に関するお願い」を、平成 29 年 5 月、9 月、平成 30 年 2 月の 3 度発行した。
- ③素形材産業の適正取引に係るフォローアップ調査（経産省・素形材センター委託）を 10 月に実施し、平成 29 年 11 月 22 日（水）第 9 回自動車取引適正化研究会（経産省）に松永副会長が出席し、鑄造協会のフォローアップ調査の概況を報告・説明した。
- ④協会 HP のトップページに、取引の取引適正化情報の関連リンク集を新たに作成し、周知を徹底した。
- ⑤世耕プランにもとづき、型管理（保管・廃棄等）についてのベストプラクティス、基本的考え方の整理、型保管のあり方（ツール）とその普及方法などについて検討する経産省による「型管理(保管・廃棄等)における未来志向型の取引慣行に関する研究会」が、前年度に引き続き 4 回開催され、金子経営部会副部会長が委員として参加。平成 29 年 7 月 18 日に経産省より「未来志向型管理アクションプラン」が策定された。

第4回 平成29年4月28日(金)(経産省会議室)

第5回 平成29年5月31日(水)(経産省会議室)

第6回 平成29年6月30日(金)(経産省会議室)

第7回 平成29年7月18日(水)(経産省会議室)

- ⑥経済産業省素形材産業室・(一財)素形材センターが主催の素形材産業取引適正化「型管理実践セミナー」(平成30年3月22日開催)において、金子協会役員経営部会副部長(型管理における未来志向型の取引慣行に関する研究会 委員)が型管理アクションプランの実施状況及び協会の取組について講演した。

4. 同業との連携に関する事項

(1) 量産銑鉄鋳物委員会(委員長 竹内 英貴)

量産銑鉄鋳物企業による市場情報、経営状況、経営課題等の情報交換を目的に4回開催した。

第37回 平成29年6月7日(金)機械振興会館 参加者25名

第38回 平成29年10月5日(木)～6日(金)石川 参加者25名
(株)梶鋳工所・石川可鍛製鉄(株)見学

第39回 平成29年12月8日(金)機械振興会館 参加者19名

第40回 平成30年3月8日(木)～9日(金)大阪 参加者27名
(株)センシュー 見学

(2) 非量産銑鉄鋳物委員会(委員長 友廣 和照)

非量産銑鉄鋳物企業による市場情報、経営状況、経営課題等の情報交換を目的に3回開催した。

第28回 平成29年6月27日(火)機械振興会館 参加者25名

第29回 平成29年11月7日(火)～8日(水)
福島製鋼(株)、川口内燃機鋳造(株)(福島) 参加者20名

第30回 平成30年2月6日(火)虹技(株)(姫路) 参加者24名

(3) 精密鋳造経営委員会(委員長 笠原 康正)

①委員会

第49回 平成29年6月20日(火)機械振興会館 参加者14名

第50回 平成29年9月27日(水)機械振興会館 参加者11名

第51回 平成29年12月4日(月)機械振興会館 参加者12名

第52回 平成30年3月22日(木)機械振興会館 参加者13名

②中国における鋳造業の視察を目的として、中国への視察を行った。

中国視察 平成29年11月20日(月)～23日(木) 江蘇省・浙江省
参加者 14名

③若手技術者育成のため、委員会構成企業への工場見学、勉強会、交流会を行った。

第1回 平成29年10月26日(木)～27日(金)

JUKI会津(株)、山形精密鋳造(株) 参加者18名

第2回 平成30年3月1日(木)～2日(金)

(株)今西製作所、(株)北川鉄工所、(株)キャステム、キングパーツ(株)

参加者 18 名

(4) 鋳鋼鋳物委員会（委員長代理 兼氏 秀樹）

第 27 回 平成 29 年 7 月 11 日（火）

（株）木村鋳造所（静岡県本社工場、伊豆 FM 工場）見学 参加者 15 名

第 28 回 平成 29 年 11 月 8 日（水）機械振興会館 参加者 19 名

第 29 回 平成 29 年 3 月 19 日（月）機械振興会館 参加者 17 名

(5) 非鉄部会情報交換会

①第 10 回 平成 29 年 7 月 3 日（月） 参加者 31 名

工場見学；株式会社光合金製作所 朝里工場
情報交換会・懇親会； ホテル ノルド小樽

②ベトナム鋳造工場視察団 参加者 13 名

平成 29 年 11 月 8 日（水）～12（日）

以下の 4 社を訪問した。

- ・ NAKASHIMA VIETNAM（銅合金鋳物鋳造）
- ・ IKI CAST VIETNAM., Co.Ltd（鋳鉄鋳物鋳造）
- ・ SADAKIM（鋳鉄鋳物鋳造）
- ・ JUKI VIETNAM Co. Ltd（精密鋳造）

5. 調査研究に関する事項

(1) 市場調査委員会（委員長 草野 泰道）

①第 22 回 平成 29 年 6 月 15 日（木）機械振興会館

②景況調査

鋳造業界の動向を把握するために、会員 50 社を対象とした毎月調査及び会員 300 社を対象とした四半期調査（6、9、12、3 月）を実施。

【調査項目】

- a. 製品別生産量・生産金額、都道府県別生産量・生産金額、従業員数の統計調査
- b. 原材料、副資材価格動向調査
- c. 景況調査
- d. 倒産、転業、廃業、休業調査
- e. 需要予測調査
- f. 景況悪化に伴う生産動向、雇用状況、資金繰り状況の調査
- g. ユーザー業界の生産動向
- h. 取引改善（世耕プラン）に関する質問を追加

6. 鋳造業に係る施策・税制等の要望・陳情に関する事項

平成 30 年度予算・税制等要望として、6 月に自由民主党の鋳物産業振興議員連に対し、11 月に自由民主党の「予算・税制等に関する政策懇談会」に対して鋳造業界の要望を実施した。（詳細は、前掲 2. 国際競争力を発揮できる環境の整備」を参照）

7. 中小企業振興に関する事項

(1) 組合代表者会の活動（委員長 中小企業部会長 酒井 英行）

- ①第 38 回 平成 29 年 6 月 9 日（金）機械振興会館 参加者 35 名
- ②第 39 回 平成 29 年 9 月 20 日（水）機械振興会館 参加者 42 名
- ③第 40 回 平成 29 年 12 月 6 日（水）機械振興会館 参加者 31 名
- ④第 41 回 平成 30 年 3 月 15 日（木）機械振興会館 参加者 29 名

(2) 組合事務局長会の活動（委員長 神場 光昭）

- ①第 43 回 平成 29 年 6 月 9 日（金）機械振興会館（組合代表者会合同）
参加者 35 名
- ②第 44 回 平成 29 年 9 月 20 日（水）機械振興会館（組合代表者会合同）
参加者 42 名
- ③第 45 回 平成 29 年 12 月 6 日（水）機械振興会館（組合代表者会合同）
参加者 31 名
- ④第 46 回 平成 30 年 2 月 23 日（金）～24 日（土）大阪市 南野産業 見学
参加者 20 名
- ⑤第 47 回 平成 30 年 3 月 15 日（木）機械振興会館（組合代表者会合同）
参加者 29 名

(3) 若手経営者委員会（委員長 高橋 健太郎）

若手経営者委員会を 3 回開催し、若手経営者全国大会（夏・冬）の企画・運営他に関し審議した。

- ①第 44 回 平成 29 年 8 月 2 日（水）機械振興会館 参加者 14 名
- ②第 45 回 平成 29 年 12 月 11 日（月）～12 日（火）
11 日（株）トミナガ、
12 日（株）クリタ、（株）大亀製作所、豊和工業（株）、見学 参加者 14 名
- ③第 46 回 平成 30 年 3 月 16 日（金）エピナール那須 錦正工業（株） 見学
参加者 19 名

(4) 中小企業部会だよりの発行

組合員を対象に中小企業部会だよりを毎月計 12 回発行した。

8. 非鉄金属鋳物に関する事項

(1) 軽合金委員会（委員長 田島 正明）

- ①第 1 回 平成 29 年 7 月 12 日（火）
無機中子セミナー・関西地区懇親・交流会 参加者 13 名
- ②第 2 回 平成 29 年 12 月 5 日（火） 機械振興会館 参加者 13 名

(2) 軽合金鋳造技術研修会の実施（技術部会と共催）

平成 29 年 9 月 1 日（金）～2 日（土） 機械振興会館 参加者 16 名（非会員 2 名）

(3) 若手幹部候補者育成

- ①平成 29 年 6 月 22 日（木） 機械振興会館 幹事会 参加者 6 名
- ②平成 29 年 11 月 17 日（金） （株）双葉見学 参加者 5 名

(4) 非鉄情報交換会

前掲 4.同業との連携に関する事項 (5) 参照

9. 技術開発に関する事項

(1) キュポラ操業研究委員会 (委員長 米田 博幸 テーマ: キュポラ操業の再検討)

①第1回 平成29年 6月23日(金) 機械振興会館 参加者12名

②第2回 平成29年 9月6日(水) 機械振興会館 参加者13名

③第3回 平成29年 11月22日(水) 機械振興会館 参加者10名

④第4回 平成30年 3月16日(金) 機械振興会館 参加者11名

(2) 電気炉操業研究委員会 (委員長 菅野 利猛 テーマ: 溶解原単位の低減)

①第1回 平成29年 6月16日(水) 機械振興会館 参加者26名

②第2回 平成29年 9月20日(水) 機械振興会館 参加者23名

③第3回 平成29年 12月5日(金) 機械振興会館 参加者27名

④第4回 平成30年 2月9日(火) (株)木村鋳造所群馬工場 参加者36名

(3) 精密鋳造技術委員会 (委員長 細田 修平 テーマ: 精密鋳造用ワックスの規格化)

(公社)日本鋳造工学会精密鋳造部会との共同開催で実施。()内は鋳造協会委員

①第1回 平成29年 6月2日(金) 機械振興会館 参加者20名(10名)

②第2回 平成29年 8月25日(金) 機械振興会館 参加者17名(10名)

③第3回 平成29年 11月18日(金) 機械振興会館 参加者19名(8名)

④第4回 平成30年 2月23日(金) 機械振興会館 参加者21名(8名)

(4) 銅合金技術委員会 (委員長 丸山 徹 関西大学)

①第1回 平成29年 8月7日(月) 機械振興会館 参加者32名

②第2回 平成29年 12月15日(金) 機械振興会館 参加者34名

③第3回 平成30年 3月9日(金) 機械振興会館 参加者37名

(5) 戦略的基盤技術高度化支援事業 (サポイン委託)

戦略的基盤技術高度化支援事業 (サポイン委託) については、終了した10件の開発成果の補完研究・事業化準備を推進した。なお、鋳型技術委員会は、委員長不在のため、平成29年度は活動を休止した。

10. 環境に関する事項

(1) エネルギー削減委員会 (委員長 重野 勝利)

①第1回 平成29年 7月20日(木) THERMOTEC 2017 視察 参加者8名

②第2回 平成29年 10月13日(金) 鋳造協会会議室 参加者8名

③第3回 平成29年 12月8日(金)

平成29年度省エネセミナー及び省エネ展示会
参加者36名

④第4回 平成30年 2月15日(木) ENEX 2018 視察 参加者10名

11. 指導・教育・人材育成に関する事項

(1) 鋳造カレッジ企画運営委員会と日本鋳造工学会人材育成委員会との合同委員会

- ①第30回 平成29年5月12日(金) 機械振興会館
- ②第31回 平成30年3月12日(月) 機械振興会館
- (2) 鑄造カレッジ現地責任者会議
 - ①第23回 平成29年9月26日(火) 機械振興会館
 - ②第24回 平成29年12月22日(金) 広島県鑄物工業協同組合
- (3) 鑄造カレッジの開催・実施
 - ①平成29年5月18日(木) 鑄造技士認定証授与式を開催し、96名の鑄造技士を認定した。
 - ②日本鑄造工学会との連携の下に、北海道・関東・東海・関西の4地区において鑄鉄・鑄鋼コースの鑄造カレッジを開催し、座学・インターンシップを実施して受講生96名が実施・修了した。
 - ③なお、この講座はものづくり小規模事業者等人材育成事業の指定講座として認定を受け、鑄造カレッジ受講生(上級コースを含む)48名がこの補助金を利用した。
- (4) 鑄造カレッジ・上級コースの開催・実施
 - ①東京・島根・盛岡・大阪において、15名の受講生で教育期間9ヶ月間の鑄造カレッジ・上級コース「鑄鉄材料・砂型コース」を平成29年6月から平成30年2月まで実施・修了した。平成28年度より執筆編集を進めたテキストが完成し、受講生・講師及び修了した上級鑄造技士に配布した。
 - ②鑄造カレッジ・上級コース「鑄鉄材料・砂型コース」委員会(委員長 米田博幸)
 - 第1回委員会 平成29年6月8日(木) 機械振興会館 出席者12名
 - 第2回委員会 平成30年2月17日(土) 機械振興会館 出席者11名
- (5) 新人教育研修プログラムの開催・実施
 - ①東京において鑄鉄コース47名、アルミニウムコース17名の受講生で教育期間6ヶ月間の新人教育研修プログラムを平成29年4月から9月まで実施・修了した。
 - ②新人教育研修プログラム委員会(委員長 北澤幸廣)
 - 第1回 平成29年11月13日(月) 機械振興会館(平成29年度実施報告)
参加者8名
 - 第2回 平成30年2月26日(月) 機械振興会館(平成30年度受講生選考)
参加者8名
- (6) 技術普及委員会(委員長 鈴木伸二)

鑄造技術研修会の講義内容に関する調整を行った。

 - ①第1回 平成29年5月22日(火) 機械振興会館 出席者8名
(研修会6月9日~10日の準備)
 - ②第2回 平成29年10月23日(火) 機械振興会館 出席者8名
(研修会12月1日~2日の準備)
 - ③第3回 平成30年2月9日(金) 機械振興会館 出席者7名
(研修会3月2日~3月3日の準備)
- (7) 鑄造技術研修会
 - ①鑄鉄鑄造技術研修会
鑄造の基礎技術を、現場技術者及び作業者を対象に「溶解」と「造型」をテーマに

2日間の研修を合計3回開催した。(技術普及委員会)

- a. 第1回 平成29年 6月9日(金)～6月10日(土) 東京
参加者 述べ34名
- b. 第2回 平成29年 12月1日(金)～12月2日(土) 広島
参加者 延べ52名
- c. 第3回 平成30年 3月2日(金)～3月3日(土) 名古屋
参加者 延べ41名

②第3回軽合金鋳造技術研修会

平成29年9月1日(金)～9月2日(土) 東京 参加者 16名(非会員2名)

(8) 鋳造技能研修会

中小企業の技術力の向上を図るために、会員企業が必要としている技術的案件に関する「重点テーマ」を取り上げ、現場技術者及び作業者を対象に短期間の専門技能研修会を行い、技術力の底上げを図った。

①第3回3D-CAD技能研修会(1回(2日間))

平成30年1月26日(金)～27日(土) 建築会館 参加者 12名

(9) インターンシップ施設検討委員会(WG)

平成29年5月22日 ものづくり大学と協議の結果、同大学スペースのリニューアルを前提とした設置について、WGでの検討の再開を決定した。

(10) 鋳造欠陥事例集編集委員会(委員長 米田博幸)

鋳造カレッジ・上級コースの講座の中で収集された各受講企業から持ち寄りの欠陥試料分析データを基に鋳造欠陥事例集を発行するために、欠陥事例集編集委員会(委員長 米田博幸)を設置し、次の活動を行った。

①第1回委員会 平成29年10月25日(水) 機械振興会館 出席者 8名

1.2. 鋳造技士会活動に関する事項

鋳造カレッジを一定の成績で終了した受講生に対する協会認定制度「鋳造技士(Foundry Expert)」は、平成29年度で827名を認定するに至った。この鋳造技士の技術のさらなる向上とネットワークを維持強化するための組織として、鋳造カレッジの6つの開催地区ごとに鋳造技士会を設立している。平成29年度の各地区の鋳造技士会の活動概要は次の通り。

(1) 北海道鋳造技士会

①平成29年12月2日(土)、勉強会の開催 参加者 8名

(2) 関東鋳造技士会

①平成29年7月7日(金)、産業技術総合研究所見学 参加者 20名

②平成30年3月23日(金) 幹事会 参加者 17名

(3) 東海鋳造技士会

平成29年12月9日(金)、講演会および東海地区鋳造技士会10周年記念大同窓会76名が参加

(4) 関西鋳造技士会

平成30年3月23日(金)、I-Site なんばにて第5回講演会・意見交換会を日本鋳造

工学会関西支部 YFE と共同開催した。参加者は、講演会に 39 名、意見交換会に 36 名の参加

(5) 北陸鑄造技士会

平成 29 年度は、活動を中止した。

(6) 中国四国鑄造技士会

①平成 29 年 4 月 11 日 (土)、技士勉強会、交換会 参加者 25 名

1.3. 標準化に関する事項

(1) 標準化委員会 (委員長 岡田 和彦)

JIS 及び ISO に関する審議

①第 1 回 平成 29 年 7 月 13 日 (木) 機械振興会館 出席者 6 名

②第 2 回 平成 29 年 11 月 28 日 (火) 機械振興会館 出席者 5 名

(2) JIS 原案の改正

①「JIS G5903 (鑄鉄製又は鑄鋼製のショット及びグリット)」の作成

a. 第 5 回 JIS G 5903 分科会開催

平成 29 年 4 月 19 日 (水) 機械振興会館 7 名

b. 第 6 回 JIS G 5903 分科会開催

平成 29 年 5 月 23 日 (火) 機械振興会館 7 名

c. 第 7 回 JIS G 5903 分科会開催

平成 29 年 7 月 3 日 (月) 機械振興会館 7 名

d. 第 2 回「JIS G5903 (鑄鉄製又は鑄鋼製のショット及びグリット)」

原案作成委員会

平成 29 年 7 月 10 日 (月) 機械振興会館 11 名

②「JIS G 5904 鑄造ショット及びグリットの粒度試験方法」の廃止

(廃止の理由)

JIS G 5904 は、鑄造ショット及びグリットの粒度試験方法 のみを記述したものであった。今回 JIS G 5903 を改正するにあたり、JIS G 5904 の内容を G5903 の本文中に記述することにより、規格内容を分かりやすくしたため、G5904 を廃止し、JIS G5903 (鑄鉄製又は鑄鋼製のショット及びグリット) に統合した。

(3) ISO/TC25 国内審議委員会 (委員長 清水一道)

ISO/TC25 の規格改定等に関する審議

①第 1 回 平成 29 年 7 月 13 日 (木) 機械振興会館 出席者 6 名

②ISO/TC25 本会議及び WG 会議は、2017 年 10 月 25 日～27 日にロンドンで開催された。事務局より 1 名参加した。

WG 7 (ISO NWIP 17804) 分類：オースフェライト鑄鉄

WG 3 (ISO 945-4) 黒鉛の微細構造

WG 6 (ISO1083) 分類：球状黒鉛鑄鉄

ISO/TC 25 全体会議 鑄鉄&銑鉄

③第 2 回 平成 29 年 11 月 28 日 (火) 機械振興会館 出席者 5 名

1 4. 設備・原材料等に関する事項

(1) 新鑄造産業ビジョン策定委員会への参画

設備、原材料のプロ集団としてアクションプランに多くの活動内容を提起し、それが題目に終始しないような地道な活動を推進していくことを確認した。

(2) ISO/TC306 国内審議委員会 (委員長 橋爪政治)

ISO/TC306 (鑄造機械規格) の規格制定等に関する審議

①第1回 平成29年5月10日(水) 機械振興会館 出席者17名

②第2回 平成29年6月6日(火) 機械振興会館 出席者23名

③平成29年6月の済南市での第1回 TC306 総会にて、WG1:用語、WG2:鑄造造型機械の安全、WG3:ダイカスト機械の安全の3つのWGでの活動開始を確認し、平成30年3月末のフランクフルトWG国際会議からのWG2とWG3に関しては日本ダイカストマシン工業会(JDMMA)と分担しての標準化規格の作成に対処していくこととした。

④第3回 平成29年11月21日(火) 機械振興会館 出席者17名

⑤平成30年3月28日~29日 Frankfurt で ISO/TC306 の WG2(造型機・中子機などの安全要件)と WG3(ダイカストマシンの安全要件)の会議があり、日本から WG2 に2名、WG3 に3名が出席した。

1 5. 国際交流に関する事項

(1) 海外視察団派遣

平成29年度は実施しなかった。なお、平成29年7月にドイツ鑄造協会(BDG)とスペイン鑄造協会(FEAF)を訪問し、後者とはGIFA2019開催時にスペインへの視察団を企画することを確認した。

(2) 国際会議・海外セミナー等への参加

平成29年6月 独ハノーバーメッセにYPP(日米独若手経営者)メンバーが参加

平成29年7月 欧州精密鑄造協会(EICF)を訪問、9月のISICでの協力関係構築を協議

平成29年9月 第9回国際精密鑄造セミナーを開催(詳細は、V.1.(3)参照)

平成29年10月 ICI(米)に那須顧問他精密鑄造関係若手が参加

平成29年11月 AFF(韓)に伊藤会長と松永副会長が出席、グローバル化の課題を協議

平成29年11月 CICBA(中国)に那須顧問、筑後技術委員長他と出席

平成30年3月 JFS理事会後にDr.Kuhlgatz(YPPの独側責任者)による「ドイツ鑄造業におけるIndustry-4.0の取組状況」についての講演会を開催

(3) 海外からの視察団受入

平成29年5月 中国山西省(中央可鍛、木村鑄造所) 16名

平成29年6月 中国江蘇省(来協)、無錫市(来協)、浙江省(妙中鋳業) 25名

平成29年9月 韓国KFA/KFS(半田キャスティング、新東工業) 33名

(4) ISIC-Tokyo 2017 実行委員会

平成29年9月開催のISIC-Tokyo 2017の実行委員会とWGを開催した。

第5回	平成29年4月7日(金)	18名出席
第6回	平成29年7月5日(水)	13名出席
第7回	平成29年7月26日(水)	19名出席
第8回	平成29年8月18日(金)	13名出席
第9回	平成29年8月25日(金)	15名出席

1.6. 労働安全衛生に関する事項

鑄造業における安全衛生対策の推進のため、リスクアセスメントの普及活動として、4団体合同で研修会を開催した（詳細は、前掲「1.（8）リスクアセスメント推進研修会」を参照）。

1.7. 表彰に関する事項

（1）協会賞の募集・選考・表彰

日本鑄造協会の協会賞として、12月に協会功労賞、経営改善賞、技術賞、技術開発賞の募集を行い、3月に選考を行った。また、平成28年度に決定した下記受賞者の表彰式を5月の総会後に開催した。

（2）協会功労賞受賞

- ①故 堀田一之氏（虹技㈱）
- ②石原安興氏（石原技術士事務所）

（3）技術賞

- ①藤本亮輔氏（東芝機械㈱）
- ②小川亮輔氏（東芝機械㈱）

（4）技術開発賞

杉田雅由氏（浜北工業㈱）

（5）小林英三賞

土方一久氏（愛知ドビー㈱）

1.8. 広報、普及啓蒙及び情報資料の提供に関する事項

（1）機関誌「鑄造ジャーナル」の発行

編集委員会を毎月開催し、機関誌「鑄造ジャーナル」を毎月、12回発行した。また、ホームページに鑄造ジャーナルの目次を掲載した。

（2）協会ホームページによる情報提供

協会ホームページの会員専用ページとEメールを活用し、各種情報の迅速な提供を行い情報発信の強化を行った。

（3）最近の鑄造業界動向の発行

当協会の四半期調査、毎月調査及び鑄造に関連する公的統計から鑄造業界に関する動向をまとめた「最近の鑄造業界動向」を毎月発行した。

（4）その他広報事業

①新聞・雑誌等に業界PR記事の提供

報道機関に対する広報活動として、日本経済新聞、日刊工業新聞、鉄鋼新聞他の専

門紙の担当記者へのプレスリリースを行い、資料の提供等取材に協力した。

②需要業界における各種調査研究資料の収集と提供を行った。

③経済産業省等関係官庁からの公報・情報収集活動と会員への提供を行った。

④その他、業界発展のための広報・情報活動を行った。

(5) 普及啓蒙事業

①経営、技術及び海外情報に関する相談業務

②新技術開発・新製品開発に関する紹介

③小中高生の鋳物工場見学受け入れ、鋳物教室開催等

(6) その他情報の提供

①法律、制度、経営、技術及び労働に関する情報の提供

②会員（賛助会員を含む）に関する情報の提供

③内外の関係情報の提供

19. 会員の催物に対する協力及び協賛に関する事項

(1) 経営、技術、労務関係、教育図書及び文献及び視聴覚教育資料の斡旋

(2) 工場視察及び見学会の斡旋

(3) 記念行事、催物における表彰状若しくは感謝状の授与

(4) 会員主催の行事、催物等への協賛及び参加

20. その他本協会の目的を達成するために必要な事項

(1) 以上の他、定款の目的に沿った各種事業を行った。

VI. 支部・地域活動、地方組織に関する事項

1. 東海支部

(1) 支部総会を4月14日に「ウイंकあいち」にて開催（出席51名）。支部役員会を4月14日及び1月26日の2回開催し、併せて本部活動報告を1回実施。講演会は総会時の講演会1回（参加者86名）、工場見学会は7月7日に地区内見学会（参加者41名）、10月26日に地区外工場見学会（参加者30）を開催した。

(2) 支援事業として、東海鋳造技士会活動に支部として協力した。また、日本鋳造工学会東海支部の講演会・講習会・工場見学会に協賛した。

2. 北陸支部

支部総会を4月20日に「ホテル日航金沢」にて開催（出席者20名）。支部役員会を10月16日及び2月19日の2回開催し、併せて本部活動報告を2回実施。講演会は総会時（出席者82名）に開催。工学会支部と共催で7月14日に鋳造技術勉強会、11月15日に技術講習会を開催。地区外工場見学会（岐阜県）を10月18日に開催した。

3. 中国四国支部

支部総会を4月11日に「ホテルセンチュリー21広島」にて開催。支部役員会を4月11日、11月15日及び2月15日の3回開催し、併せて本部活動報告を1回実施した。

講演会は総会時及び11月15日に開催した。また、交歓会を11月15日に開催した。

4. その他の地域

(1) 関東地区

11月17日(金)埼玉県及び川口鋳物工業協同組合主催の埼玉県鋳造技術コンクールの表彰式に協会賞を贈呈。

(2) 東海北陸地区

4月7～8日に平成29年度東海北陸鋳物工業会の例会に酒井副会長が参加した。

VII. 関係官庁への協力に関する事項

1. 適正取引推進のための各種委員会への委員推薦

(1) 自動車取引適正化研究会

「未来志向型の取引慣行に向けて(世耕プラン)」に基づき、平成29年9月に開催された経済産業省自動車課による自動車産業適正取引ガイドライン改訂を行う自動車取引適正化研究会に、鋳造業界代表として松永副会長が伊藤会長代理として参加した。

(2) 素形材産業取引ガイドラインの見直しに係る素形材産業ガイドライン策定委員会

世耕プランに基づき、平成30年1～3月に開催された経済産業省素形材産業室による素形材ガイドラインの見直しを行う素形材産業ガイドライン策定委員会に、鋳造業界代表として伊藤会長が参加した。

(3) 素形材産業取引に関する自主行動計画フォローアップ委員会

世耕プランに基づき、平成29年12月に素形材産業の適正取引と生産性・付加価値向上に向けた自主行動計画のフォローアップを行う「素形材産業における適正取引等の推進のための自主行動計画フォローアップ委員会」に、鋳造業界代表として伊藤会長が参加した。

(4) 型管理(保管・廃棄等)における未来志向型の取引慣行に関する研究会

世耕プランに基づく幅広い下請け構造を持つ自動車等の業種を対象とした型の保管・管理の適正化を推進する「型管理(保管・廃棄等)における未来志向型の取引慣行に関する研究会」に、前年度に引き続き鋳造業界代表として金子協会役員が参加した。

2. 中央技能検定委員の推薦

中央職業能力開発協会に対して、「金属溶解(鋳鉄溶解作業)」に5名、「鋳造(鋳鉄鋳物鋳造作業)」に5名、「鋳造(非鉄金属鋳物鋳造作業)」に4名、「鋳造(鋳鋼鋳物鋳造作業)」に2名委員を推薦した。

3. 「生産性向上設備投資促進税制」の証明書発行

中小企業等経営強化法の設備に係る仕様等証明書の発行を行った(99件)。

4. 「中小企業経営強化法」関連の証明書発行

中小企業等経営強化法の設備に係る仕様等証明書の発行を行った（179件）。

VIII. 関係団体との交流に関する事項

1. 素形材関連団体連絡会

素形材に関する交流促進や普及啓発を議論し実施する場として、（一財）素形材センターが主催する素形材団体交流委員会に角田専務理事が委員として毎回出席した。

2. 素形材産業優良従業員表彰委員会

（一財）素形材センターが主催する素形材産業優良従業員表彰委員会に、角田専務理事が委員として出席した。

3. 鋳物関連団体への協力

- (1) （公社）日本鋳造工学会の春・秋季大会、各支部におけるセミナー、工場見学会を後援。
- (2) （一財）素形材センターの素形材月間事業（11月）への後援。
- (3) 島根県鋳造関連産業振興協議会総会（7月・松江市）に松永副会長・角田専務理事が出席し、平成29年度の当協会の活動概要を報告。併せて、同協議会が主催する初級講座開催を支援。
- (4) 日本ダイカストマシン工業会主催のセミナー（2月）への後援。

4. 御鋳物師会

9月22日（金）、岐阜市岐阜鋳物会館において第21回鋳物師会を開催し、岐阜鋳物会館展示資料の見学、鍋屋バイテック㈱を見学し、意見交換を行った。参加者18名

IX. 会員及び組織に関する事項

1. 組織拡充強化に関する事項

- (1) 未加入の企業、組合の正会員の加入を促進した。（正会員8社加入）
- (2) 本協会の目的・事業に協力いただく賛助会員の加入を促進した。（1社加入）

2. 会員及び組織に関する事項

- (1) 正会員及び賛助会員（平成30年3月31日現在）
 - ①法人正会員 333社
 - ②団体正会員 36組合（503社）
 - ③賛助会員 46社
- (2) 理事・監事・協会役員・顧問・参与名簿（別紙1参照）
- (3) 協会事業運営組織図（別紙2参照）
- (4) 部会委員・支部長名簿（別紙3参照）
- (5) 協会事務局組織図（別紙4参照）
- (6) 協会活動状況一覧表（別紙5参照）